学校だより
みなみたなか
平成２５年１月８日
練馬区立南田中小学校
校長　柾谷　雅弘

志を高くもち、その達成のために最善を尽くそう

校長　柾谷雅弘

新年明けましておめでとうございます。昨年の本校へのご支援に厚く御礼申し上げます。本年もご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

元旦に数社の新聞に目を通しましたが、数社の広告に明治時代に活躍した細菌学者の北里柴三郎博士の「熱をもて。誠をもて。」という言葉が紹介されていました。

ドイツへ留学をし、不可能といわれていた破傷風菌の純粋培養に世界で初めて成功し、破傷風の血清療法を考案し「世界の Kitasato」となった留学中の北里を、ストラスブルグ大学に留学中の生化学者、荒木寅三郎（後の京都帝国大学総長）が訪ねたとき、次のように若き友人を励ましたそうです。

「人に熱と誠があれば何事も達成する。世の中は決して行き詰まらぬ。もし、行き詰まったとしたら、それは一人に熱と誠がないからだ。」

この言葉に出会い、明治時代の若者が、日本が進んだ世界に追いつくために熱い情熱を燃やしていたことを再確認しました。

今の日本人に必要な資質の一つを、北里柴三郎の言葉から考えさせられました。

私は、小学校を卒業するまでに、「一人一人の児童が、自分の志（こころざし）を高く掲げて、そのためにどのような努力をしたらよいか。」をしっかりと見据えて欲しいと願っています。

そのために、南田中小学校では、様々な体験・学習・行事を通して友達との絆を深め、そして、一人一人が将来の目標をおぼろげでももてるように指導に当たっています。

自分の生き方を考えるヒントの一つに、世界の子供とかかわりをもつことが挙げられます。

幸い、南田中小学校では、毎年、４年生が、東京練馬中央ロータリークラブの皆様のご支援をいただき「シューズバンクプロジェクト」に取り組んでいます。

感謝状

練馬区立南田中小学校五年生一同 殿

あなたは東京練馬中央ロータリークラブの社会奉仕として行われたフィリピンシューズバンク事業に対し深い理解と協力を下さいました依ってここに感謝の意を表します

平成24年12月吉日

東京練馬中央ロータリークラブ
会長 櫻井 健一

昨年度の4年生への感謝状

「シューズバンクプロジェクト」とは、今から９年前にロータリークラブの方が始めた社会貢献プロジェクトです。

日本の小学校や病院、音楽教室等々子供たちや企業が協力して集めた靴をだいたい１回に１０００足前後フィリピンの学校に届けています。

南田中小学校では、４年生が総合の学習の時間に取り組み、フィリピンの国や子供たちの様子を調べ、なぜ、靴を贈る必要があるのかを全校児童に紹介をし、靴を集めています。

１月から３月にかけての寒い朝、登校時に、４年生の子供たちが中心になってまだ履けるものや家に眠っていた新古品などを自主的に集めています。その集めた靴をロータリークラブの皆さんがフィリピンの学校に届けてくれているのです。

フィリピンは、人口の三分の一が一日１ドル以下で暮らしている国ですから、靴は大変高価なものだそうです。特にマニラから２～３時間車で走ればそこは別世界で、靴を履いている子供はほとんど見かけないそうです。靴がないから学校に通うのが嫌だという子もいるそうです。

『このプロジェクトには日本の子供たちとフィリピンの子供たちが登場します。

靴を送る側と靴を貰う側、いつまでも一方通行では国も子供たちも成長しません。

フィリピンの子供たちには自ら社会貢献できる人間に成長して欲しいし、日本の子供たちには、この貢献活動を通して立派な人間に成長して欲しい。』と、プロジェクトを通して互いに成長して欲しいと願うロータリークラブの方のお話を聞かせていただいています。

シューズバンクプロジェクトやユニセフ募金を通して、いかに自分たち日本の子供たちが恵まれているかを知ると共に、世界には、食べることに毎日汲汲としている子供が大勢いる中で、自分のために時間を自由に使うことが出来ることが、いかに幸せなことかを噛みしめて欲しいと強く願っています。そして、自分の志を高く掲げ、そのために最善を尽くして欲しいと思います。